ミツロウキャンドル

場所	どこでも
時間	30 分～1 時間
値段	料金表参照
季節	年間
人数	屋外：何人でも 屋内：各部屋 定員数

プログラムの概要・ねらい

火を使わずに手軽に簡単にできるキャンドル作り。ミツバチの巣「蜜蝋」でできたシートを使って作るので、展示室の見学とあわせて自然とのつながりについて考えるきっかけ作りにもなる。また、形作りや装飾によって一人一人の個性を表現でき、焚き火（野外炊飯）やキャンプファイアー、キャンドルサービス時などで火を灯すこともできる。

準備物

【利 用 者】ペン、活動に適した服装、救急用品、新聞紙
【自然の家】材料（ミツロウシート 3 枚、ロウビキ芯 1 本、白紙、キャンドルホルダー）、ハサミ、定規

①準備

■学校・団体：材料と備品をサービスセンター受付で受け取る。
※材料数を確認する。必要であれば活動場所の鍵も受け取る。
■家族：材料をサービスセンター受付にて購入し、備品を受け取る。

②実施の流れ

【時間】

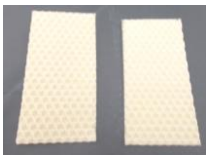
0:00　作り方の説明をする。

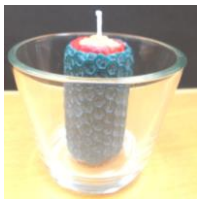
0:05　机に新聞紙を敷き、その上に白紙も敷く。
ミツロウシートを手や体の熱で温めてシートを柔らかくし加工しやすくします。
※ミツロウシートが硬いまま加工するとシートが割れてきれいに加工できません。

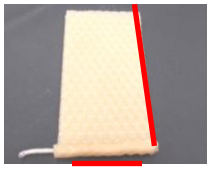
0:10　ミツロウシート各 3 枚を半分に優しく折って半分に切る。（写真①）

0:15　以下の作り方のポイントを守って白紙の上で好きな形や模様にしてキャンドルを作る。
●キャンドルの高さは 5cm 以下にする。（キャンドルホルダーに入れて火をつけられる最大の高さ。）（写真②）
●ロウビキ芯は、キャンドルの頭側（上部）に 0.5cm～1cm 芯が飛び出すようにハサミで切り 1 本置く。（写真②）
※ひとつのキャンドルに複数の芯をつけない。それぞれの炎が合体すると大きな炎になってしまう。
●巻き始めは、芯が抜けないようにしっかり巻きつけてとめる。（写真③）
●キャンドルの底側（下部）は、芯が飛び出さないように置き、まっすぐに巻く。（写真③　　）
●巻き終わりは手で温めてはがれないようにとめる。
●飾りを作る場合は、手でちぎったり、ハサミで好きな形に切ったりして手で温め、粘土のように、こねたりのばしたり丸めたりして形作る。本体には、手で温めながらとめる。（写真④⑤）

0:30　完成、片付け、終了

①


②


③


④

⑤

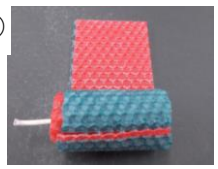
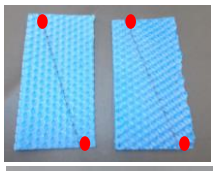
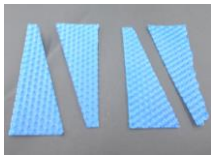
次ページへ

ミツロウキャンドル　その２

【基本の作り方】
棒　　型：半分にしたミツロウシートを全てグルグル巻く。（写真②③⑥）
らせん型：約1cm（●）にペンで印をつけ斜線を引きハサミで切る。（写真⑦⑧）
　　数枚重ねて温めて付いてから幅の広い辺から巻き始める。（写真⑨⑩④）

【火を灯す時の注意】
・キャンドルホルダーの底にミツロウキャンドルの底を少し溶かすなどして付けて固定させる。（写真②）※複数の作品を１個のキャンドルホルダーに入れて火を付けないこと。（写真⑪）
・火を灯せる場所は、屋外（キャンプサイト、野外炊飯場、営火場等）、屋内（クラフト室、実習室、キャンドルサービス実施場所）
※キャンドルホルダーの高さ以上の高さにした作品は、室内では火はつけられない。
※火をつけたら、目を離さない。その場から離れない。
※風のあるところで灯すのは避ける。周りに燃えやすいものを置かない。
※複数のキャンドルがある場合は、くっつけすぎない。
※途中で芯が倒れてしまったら火を消す。
※キャンドルホルダーに直火が触れないようにする。

～蜜蝋（ミツロウ）について～
【展示室見学】
「蜜蝋ミツロウ」とはミツバチの巣のことです。ミツバチが蜂蜜を作り、蜜蝋ができるための花を咲かせるには、豊かな自然（太陽や雨、土、ミツバチ以外の生きものなどの働き）が欠かせません。環境学習センター展示室にミツバチの巣の実物を展示しています。見学をして、自然のつながりについて考えてみましょう。
（写真⑫⑬）

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

③後片付け

学校・団体：新聞紙をごみ箱へ捨て、使った場所の掃除をする。工具、部屋等の破損があった場合は、サービスセンター受付へ伝える。部屋の鍵、見本、プログラムシートはサービスセンター受付へ返却する。
家族：新聞紙をごみ箱へ捨て、机の上をきれいにし、借りた備品をサービスセンター受付に返却する。